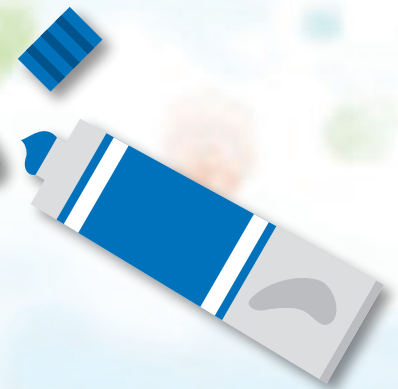


第55回 下水道の日

# 作品コンクール

入賞作品集



**主催** 埼玉県、埼玉県下水道協会、公益財団法人埼玉県下水道公社

**後援** 埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会

このたび、第55回「下水道の日」の記念事業として、標語・ポスター・書道及び作文の募集を行ったところ、多くの皆様から数々の優れた作品の応募をいただき、厚く御礼申し上げます。



# 9月10日は 下水道の日

下水道は、風呂やトイレ等で使った水をきれいにして川に戻します。そのため、川や海の水質環境保全やトイレの水洗化による悪臭、蠅や蚊など害虫の発生を抑制するなど、人々が清潔で快適な生活のためになくはならない都市基盤施設です。また、都市に降った雨水を集めて流すことにより、浸水から街を守っています。

「下水道の日」は、1961年(昭和36年)に下水道の普及およびアピールを図るために「全国下水道促進デー」として定められたものが始まりです。

当時は下水道の普及が著しく遅れており、また経済が高度成長した反面、生活環境や公共用水域の悪化が著しくなっており、下水道の整備・促進に対する要望が高まっていました。

それから40年が経過し、2001年(平成13年)が21世紀のスタートの年でもあることから、より親しみのある「下水道の日」に名称が変更されました。

9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水の排除」を念頭に、台風シーズンである210日を過ぎた220日(立春から数えて)が最適であるとされたためです。

毎年、9月10日を中心とした前後1週間に、下水道に対する理解や関心を深めていただくため、下水道事業者である地方公共団体などが様々な催しを全国で開催しています。

埼玉県においては、埼玉県、埼玉県下水道協会および公益財団法人埼玉県下水道公社の三者が共催し、「下水道の日」の記念事業として、「作品コンクール」や水循環センターを見学する「下水道の日の集い」を実施しております。





**標語部門** ..... 2ページ

**ポスター部門**

小学校低学年の部 ..... 3ページ  
小学校高学年の部 ..... 4ページ  
中学生の部 ..... 5ページ

**書道部門**

小学校低学年の部 ..... 6ページ  
小学校高学年の部 ..... 7ページ  
中学生の部 ..... 8ページ

**作文部門**

小学校高学年の部 ..... 9ページ  
中学生の部 ..... 13ページ



埼玉県知事賞

水の星 守り続ける 下水道

白岡市在住

坂田 みつ江



埼玉県下水道協会会長賞

飲めるよね ほたるも魚も ぼくたちも

加須市立加須小学校4年

吉田 智裕



入選

この道で 生まれ変わる わたしたちの水

さいたま市立大谷場小学校6年

北沢 優衣



入選

下水道 守るはぼくらと 青い地球

越生町立越生中学校3年

土居 明日香



入選

大雨だ 下水処理は フルパワー

越谷市在住

鳥海 和代



入選



越谷市立大沢小学校 2年  
小林 龍ノ介

入選



春日部市立幸松小学校 2年  
安部 麻乃香

入選



春日部市立南桜井小学校 3年  
葛西 壮琉

埼玉県知事賞



上尾市立今泉小学校 1年  
金子 裕哉

埼玉県下水道協会賞



川越市立霞ヶ関西小学校 3年  
水村 心菜





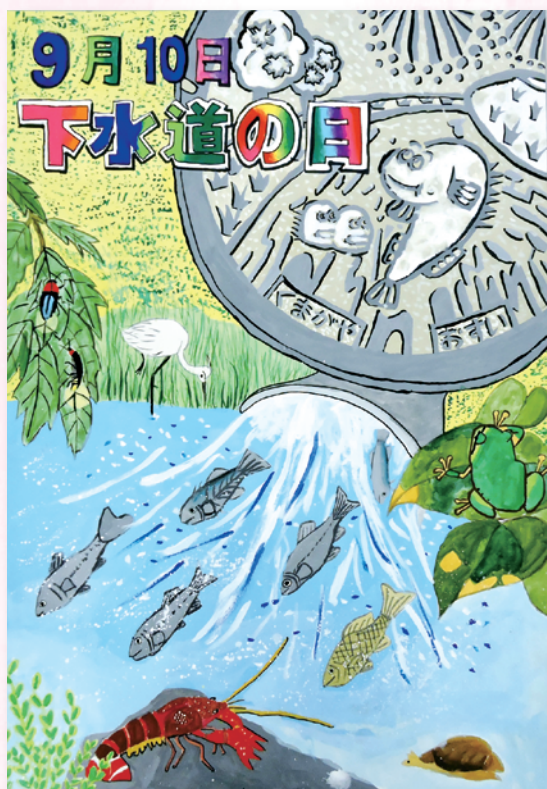
埼玉県下水道協会長賞



さいたま市立蓮沼小学校 6年  
片岡 美土里



埼玉県知事賞



熊谷市立桜木小学校 5年  
中山 愛理



入選



富士見市立つせ台小学校 5年  
岡田 遼



入選



さいたま市立七里小学校 4年  
深見 咲約



入選



吉見町立北小学校 4年  
宮崎 優佳





埼玉県下水道協会長賞



さいたま市立日進中学校 2年  
松田 玲奈



埼玉県知事賞



さいたま市立大原中学校 2年  
小林 怜司



入選



深谷市立川本中学校 1年  
飯塚 琴美



入選



深谷市立南中学校 3年  
永井 実優



入選



所沢市立南陵中学校 3年  
小林 愛果



埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞



川島町立中山小学校 3年

厚木 瑠奈



鴻巣市立広田小学校 3年

齋藤 優香



春日部市立上沖小学校 3年

渡部 潤也



吉見町立南小学校 3年

島田 琉可



さいたま市立指扇小学校 3年

小久井 琉唯



桶川市立加納小学校 3年

長谷川 ゆら



さいたま市立太田小学校 2年

土田 萌衣





埼玉県下水道協会会長賞

五年 齋藤直人  
下水道の役割

鴻巣市立広田小学校 5年  
齋藤 直人



埼玉県知事賞

六年 松崎志織  
下水道の役割

川島町立小見野小学校 6年  
松崎 志織



小六 安孫子 柊牙  
下水道の役割

春日部市立桜川小学校 6年  
安孫子 柊牙



六年 平田 愛結  
下水道の役割

春日部市立桜川小学校 6年  
平田 愛結



六年 川村 悠花  
下水道の役割

鴻巣市立鴻巣南小学校 6年  
川村 悠花



六年 三村 菜々美  
下水道の役割

吉見町立北小学校 6年  
三村 菜々美



六年 岩崎 光希  
下水道の役割

川島町立出丸小学校 6年  
岩崎 光希

埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞

中三年  
大石真衣  
下水道と環境

川島町立川島中学校 3年

大石 真衣

中三年  
角倉希乃香  
下水道と環境

鴻巣市立鴻巣中学校 3年

角倉 希乃香

入選

入選

三年  
長谷川亜実  
下水道と環境

行田市立見沼中学校 3年

長谷川 亜実

中三年  
齋地菜月  
下水道と環境

鴻巣市立鴻巣中学校 3年

齋地 菜月

入選

入選

入選

中三年  
加藤成美  
下水道と環境

深谷市立明戸中学校 3年

加藤 成美

中三年  
川村清香  
下水道と環境

鴻巣市立鴻巣西中学校 3年

川村 清香

中三年  
田村竜也  
下水道と環境

鴻巣市立鴻巣中学校 3年

田村 竜也





## 埼玉県知事賞

### 意識で変わる未来

さいたま市立大宮小学校 六年

藤本 頼和

「日本の川はきれいだなあ。」

お父さんが言いました。

ぼくのお父さんはフィリピンやカンボジアなどの開発途上国で下水道に関わる仕事をしています。海外の川は汚く、悪臭がするそうです。日本の川がきれいなのは、下水処理技術が高いからだと言います。

日本は下水処理場できれいな水にし、川や海の環境を守っています。まず大きなごみ等を取り除き、汚泥を引き抜きます。汚泥は処理され処分、リサイクルされます。次に微生物の力で有機物を酸化し無機物に変えます。最後に泥のかたまりを沈殿させ、上澄み水と汚泥に分離、消毒をした後、やっと河川に流されるのです。

下水道関係の方々の努力は本当にすごいと思います。もし一日、いや一時間でも休んでしまったらどうなるでしょう。下水道管がつまりてあふれ、ひどい悪臭に悩むことになる

と考えられます。日本の技術はすごいです。

しかし、いくら高度な技術を持っているからといって、私たちが何もしなくて良いのでしょうか。

ある実験で使用済天ぷら油五百ミリリットルを魚が住める水質にするのにどのくらいの水が必要か調べていました。なんと十五万リットルもの水が必要だそうです。「一回だけだから」「ちょっとだけだから」と軽い気持ちで流したものが大量の水と費用をむだにすることに気がねないと思いました。

そこで、具体的に何ができるか考えました。まず、なるべく汚れた水や油を流さないことです。洗剤、石けんなどは適量を使い、油は不用紙でふきとって燃えるごみとして出します。下水処理場に流れてくる水の汚れが少なければ、下水処理にかかる電力や労力が軽くなります。次に、つまりの原因になる物を流さないことです。例えば、かみの毛や食べかすなどで、つまると悪臭の原因になります。

それを防ぐために、水切り袋や排水口にネットを使用するといった方法が挙げられます。「この他にも今できることはまだまだあります。大切なことは、自分から行動を起こそう」という意識ではないでしょうか。

ぼくは江戸が世界でも有数の清潔な都市だったと知っていたので調べてみました。江

戸には下水道があったそうです。下水道は人々が健康な生活を営むために不可欠なものなかもしれません。また当時、コレラやペストが流行していたヨーロッパでは下水道が整備されていなかったと言われています。

江戸の町に住む人々は協力して下水や表通りの雨水用の溝を清掃していたそうです。「もしごみなど汚物を捨てるようなことをしたら処罰する」とまで記録されています。

下水道を守る事が自分達の健康につながったのです。

お父さんが今の開発途上国の様子について話してくれました。

「ごみを道や川に捨ててはいけないという教育が行き届いていない。だから当然のように川にごみを捨てる。そして、川が汚れていることを何とも思わない。それが問題だ。」ぼくは下水道を整備することが急務だと考えていました。しかし、それよりも大切なことがあると気づきました。それは、一人ひとりが環境に関心を持つことです。日本でもそうです。日本では排水設備が整っているのです。何も考えていなくても川がきれいです。でも、それでいいのでしょうか。

水は循環しています。自分のためにも未来のためにも、もう一度下水道について考えたいです。





埼玉県下水道協会会長賞

わたしたちの

生活にかかせない水

北本市立南小学校 四年

小川 歩実

一学期の社会科のじゅ業で、先生が、「水は、みんなの生活を守っているんだよ。」と、教えてくれて、用水路や水道の勉強をしました。そして、下水道の「下」という文字がつくことが不思議で、とてもきょう味を持ちました。また学校の校外学習で「利根大せき」を見学し、きれいな水ができるまでの仕組みなどが分かりとてもおどろきました。

夏休みには、埼玉県下水道公社の「夏休み親子下水道教室」に参加しました。どんなことをやるのかなど、とても楽しみにしていました。また、不思議に思っていたことを知ることができました。しせつには、いくつもの池があり、くまがや市、行田市、鴻巣市、北本市、桶川市の下水道の水が集められます。順番に池をのぞいていくと、とうめい度のある水になっています。ゴミ等をしずめて、となりの池へよごれた水をゆっくり流し、しずんだゴミは、

まとめてしよつきやくするそうです。よごれた水をきれいにする時、目には見えない小さな「び生物」が手伝ってくれます。いくつもの実験やそのび生物を見るために、わたしは、初めて、いろいろな実験道具や、けんびきょうを用いました。科学者になった気分ドキドキしながら中をのぞいてみると、水の中にはたくさんび生物が動いていました。とても気持ちが悪かったけれど、こんなに小さなび生物が、水をきれいにしてくれるのだとおどろきました。また、少しのよごれもきれいにするために、多くの水を使うことを知り、水を節約していくことも大切だと思いました。

家に帰ってから、水(かんきょうを守る)のことについて、家族で話し合い、次のような家族ルールを考えました。

一つ目は、「今、家族でやっていること。」です。歯みがきの時は水を出しっぱなしにしないで、口をゆすぐときのコップを用意して使っています。食器などをあらう時に使う台所用せんざいは、うすめて使っています。お風呂ののり湯を利用してせんたくをしています。お風呂のシャワーは使わないときは止めています。てんぷら油を捨てる時は、キッチンペーパーにしみこませてみえるゴミに捨てています。汁物などをのこす時は、臭だけは生ゴミに捨てています。

二つ目は、「これからできること。」です。お

米のとき汁は畑や花のまわりにまく。とき汁には米ようがいっぱいなので、植物がいきいきします。食器やフライパンなどの油よごれは、新聞紙などでふき取ってからあらうこと。そうすると少ないせんざいの量ですみます。また、食器類を大きなボールに入れて、水につけ置きしておくことで、水を節約します。

このように、みんなができることを少しずつ始めていくことが一番大切で、水を守っていくことが一番大切で、水を守っていくことができると考えました。これからも、水のわく星をわたしたちみんなで守り、住みやすい地球であってほしいと思います。



入選

がんばれ下水しよ理場

三郷市立鷹野小学校 四年

大町 拡暉

ぼくは「よごれた水は、どうやってきれいにするんだらう」ときょう味が、夏休み下水道教室に参加しました。



中川水じゅんかんセンターは、東京ドームが十三個分も入るとても広い所だったので、びっくりしました。

まず、映画かんしょうをします。これは、下水道の役割やれきしなどです。

次に、「水のじゅんかん」の説明を聞いたあとに、しよ理しせつの見学で、ぼくが一番楽しみにしていた場所です。「早く、その時間が来ないかな」と待ち遠しかったです。

下水しよ理場の見学は、最初ちんでん池から反応タンク、そして最終ちんでん池です。

最初ちんでん池は、汚水をゆつくり流し、ちんでんしよ理しせつごみを取り除き、ちんでん時間は、約一、五時間です。

反応タンクは、空気を混ぜているので、空気のあわが見えます。空気を入れる事によって、び生物が元気になるという事を、しよく員の方から教わりました。反応タンクのび生物の活やくで、よごれが分かきされ、ちんでんしよ理しせつごみは、よく考えられた作戦だとおもいました。

最終ちんでん池では、び生物と水を分りさせます。池の底にしよんだ活性おでいは、反応タンクに返送され、残りはおでいしよ理しせつごみしよ理され、ちんでん時間は約三から四時間です。ここには、水面にうかんだ油を取る

そう置がありました。

水しよ理のかていで出来たよごれのかたまりは、のうしゆく、だつ水した後、焼きやくしてはいにします。本で調べてみると、そのはいは、セメントの原料、水をしぼったおでいは、ひ料やレンガのざい料にり用していて、もやしたはいをうめ立てて、しよ分している所もありました。ゴミとしてふやさずに、活用してさいり用することは、すごいアイデアだとも思いました。

最後に、水しよ理実験です。下水道に入ってくる水を調べたり、トイレットペーパーとティッシュペーパーの配かんの流れ方のちがいを見ます。

下水のとうし度を見くらべてから、ペットボトルの中に水を入れて、トイレットペーパーとティッシュペーパーを、それぞれ入れます。トイレットペーパーは、十回ふると水にとけましたが、ティッシュペーパーは、しばらくふり続けても、形が変わりません。

そのあとに、下水かんのも形を使って、紙が流れる実験してみると、結果は、水にとけないうティッシュペーパーがつかまってしまいました。同じ紙だと思っていました。ティッシュペーパーを流してしまつと、かんとにつまってしまうので、ぜつ対にやつてはいけないんだと学びました。

び生物は小さすぎて、目で見る事が出来ないで、けんびきようを使って調べました。すると、アルセラといたちむし、スピロストマム、エピステイリスを見つけました。かんさつしているとき、び生物がよごれを、もぐもぐ、パクパク食べていました。小さな生き物の活やくを見て、人のために水をきれいにしてくれるのは、とてもありがたい事だと感じました。中川水じゅんかんセンターでは、およそ二百種類のび生物が、がんばつてくれています。

下水を集めてしよ理するには、こんなに大きなしせつと手間と、ぼく大なひ用がかかります。

ぼくたちに出来る事は、下水道に流す水あまりよごさない事が大切で、てきりようのせんざいだけにしたたり、油やゴミを流さないように工夫していく事です。人だけではなく、魚や動物、虫や草、木や花など、生きていくために必要な、みんなの水を大切にしていきたいとおもいました。







入選

## なくてはならない下水道

三郷市立新和小学校 四年

堀川 彩良

学校で夏休み下水道教室のパンフレットをもらいました。社会科見学で浄水場に行って川などの水をきれいにし、飲み水にしていることは分かったけれど、ならば下水処理場はどのようなしくみでどのような役割があるのか気になりお母さんと参加してみることにしました。

下水道教室が行なわれたのは中川水じゅんかんセンターでした。ディスプレイと同じ広さでそれほど広さがないと汚ない水をきれいにできないんだな、と施設見学をした時に思いました。

お風呂やトイレ、皿洗いなど私たちの家庭で使われた水は下水道を通じて中川水じゅんかんセンターへ流れていきます。その後大きなゴミを取りのぞきポンプで地上まで引き上げ、最初ちんでん池で2時間かけて流します。最初ちんでん池を見学した時、水はくさくて水もにごっていました。

次に反応タンクでび生物を利用して下水を少しずつきれいにしていきました。けんびきょうでび生物の観察をした時、いたちむしとアルセラをたくさん見つけることができました。最初は小さな虫がたくさんいてびっくりしましたがこのび生物が水をきれいにしてくれていると思うとなぜだかわいく見えました。

最後に最終ちんでん池で水を2時間半かけてゆっくり流しび生物を少しずつ、きれいになった上ずみ水を消毒設備に送ります。消毒して中川へ返しま

す。最終ちんでん池で水を見せてもらうと最初ちんでん池の時とくらべてにおいもなくすきとおっていました。川にもどすのがもったいないくらいきれいでした。

下水道教室に参加して私たちの生活は下水道によって守られていることが分かりました。もし下水道がなかったら街中が汚れた水で洪水してしまい水洗トイレも使うことができなくなり、海や川が汚れてしまいます。

4人家族の場合一日に使う水の量は約千リットルです。水を大切にすると共に食べるのこしをしない、水管がつまってしまうのでトイレトーパー以外の紙は流さない、び生物が苦しんでしまうので油は流さないなど下水道で働いている人の苦ろうや努力をむだにしないためにも正しく水を使って生活したいと思いました。





## 埼玉県知事賞

### 大切な水

八潮市立八條中学校 三年

大久保 翔馬

豊かな生活を送り、生きていくために「水」というものはとても大切です。「水」は、人間の生命を維持させるために飲んだり、排泄物を流す時にも使用します。人間は、この地球上のどの生物よりも水を多く使用し、そして汚しています。その汚れた水が直接川に流れ出てしまうと、水の中で生活する魚たちに直接害を与えてしまうのです。その汚染された魚たちを人間が食べてしまうということを考えて、とても恐ろしくなります。しかし、私たちが毎日の生活で使用している「水」は、とてもきれいです。きれいな水になるには、浄水場でろ過をし

て、人や他の生き物が飲んでも害がないようにしているからなのです。だからとても安心して使用することができのです。そして、使用し汚れた水は下水道に流され下水処理され、再び川や海に流されるのです。そしてまた、浄水場でろ過され、くり返されていくのです。汚れた水をきれいにし、川に流すという大切な処理をする所が下水処理場です。

下水処理場について少し調べてみると、下水処理場では、汚れを沈めて取り除く沈でんと、微生物の働きで分解する方法を組み合わせて、汚水を処理しているようです。処理された水を川に流すには、BODという尺度で二十ピーピーエム以下の水質にして放流することなどが決められています。その下水処理場では、毎日大量の下水を処理しているようです。その下水に含まれていた汚れは大量の汚泥となり、処理施設にたまります。その汚泥は泥水に近い状態なので、

脱水機などを使って水分を減らすと、粘土くらいの軟らかさになります。これを焼却炉で燃やし、残った灰は埋め立て場に埋められています。しかし最近では、埋め立て場が足りなくなってきたので、汚泥の焼却灰を原料にして、レンガを作ったりして工夫しているのとことです。後で聞いた話ですが、私の通う中学校にある広場のレンガもこの汚泥から作られているとのことと、とても身近に感じます。汚泥を肥料として利用する研究も進められているので、汚泥を少しでも多く減らすことができます。

このように、川から浄水場へ、浄水場から蛇口へ。そして、下水道から下水処理場へ。下水処理場から川やレンガとなって自然へと戻っていくのです。つまり、水は循環しているということになるのです。ですからなおさら大切にしなければならぬと感じます。

また、台風や大雨の時にも下水道は力



を發揮します。道路にあふれた雨水は、歩道の脇の溝から川に流れていき、洪水を防いでくれているのです。

この地球は私たち人間だけが暮らしているのではなく、たくさんの生物が暮らしています。同じ地球上に住む仲間のためにも、良い環境を次の世代につなげていかなければならないと思います。

では、下水道を大切に使用するにはどうしたらよいのでしょうか。まず、汚れた水を流さない工夫をすることが考えられます。例えば、洗い物で油污れがある場合は、最初にクッキングペーパーなどでよく拭き取ってから水で洗うなどが考えられます。また、食べ残した物は水に流さないでゴミ箱に捨てるなど、少しの工夫で環境を守ることが出来ると思います。大雨が降った時、道路などに流れ出す雨がスムーズに流れるようにすることも大切です。そして、水害を減らすのです。そのためには、下水が流れ

る溝がつまりないように落ち葉などを取り除くことをこまめに行うことも必要です。

日常生活でのちょっとした心遣いで、水はいつまでも輝き続けると思います。そして、豊かな環境を次の世代へとバトンタッチするために、常に身近な水と環境のことを考え、生活していけたらと思います。



### 私たちの生活と

### 下水道の役割

さいたま市立三室中学校 三年

手嶋 美佳

先日、母が災害用の簡易式トイレを買ってきました。私は、なんとなく使用

方法を読んでいたのですが、ふと、私たちが普段使用しているトイレで流された水や排泄物はどこへ行くのか、私たちがトイレのレバーを一度引くことで、そこにあつたものは最終的にはどこにたどり着くのだろう、と思いました。そこで、「下水道」について、もっと詳しく知りたいと思い、今回調べることになりました。

「下水道」は、生活するうえでいろいろな人が使ったさまざまな汚水を分解して私たちの街にある川や湖などに戻す施設全体のことをいいます。それを踏まえると、日本のほとんどの場所で下水道がはり巡らされているような気がします。また、トイレの排泄物だけではなく、洗濯物の汚水、食器洗いの汚水、風呂の汚水、といった生活雑排水と呼ばれる生活の至る所で使われた汚水をも分解してきれいな水に戻し、川や湖に流すことができるのが下水道なのだと分かりま



した。

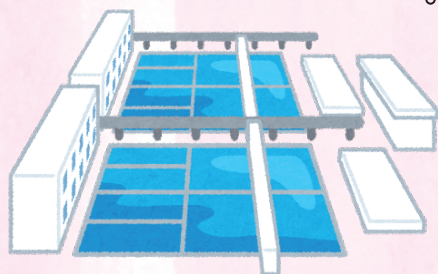
きれいな水にするためには、物理的処理と呼ばれる沈殿による処理であったり、生物的处理と呼ばれる培養した微生物などを利用した処理だったり、化学的処理と呼ばれる主に薬品を使った消毒処理を用いたり、その処理方法にはあまりにもたくさん種類があります。水をきれいにするには、私が考えていた以上に専門的な知識と経験を要し、それを元にした施設がなければ、川や湖などにきれいな水が再び戻ってくることはないと分かり、専門知識の大切さとその活用法に驚かされました。

そして私は、どうしてこのようなさまざまな処理方法を使ってでも下水道が必要なのか、と疑問に思い、調べてみるようになりました。

その結果、汚水がそのまま垂れ流しの状態でいると、私たちの生活の中にある川や湖などに流れて、不衛生な汚水が原

因で蚊やハエが大量に発生し、大腸菌などのさまざまな病原体等伝染病が発生して、私たちが生きること自体が大きな危険にさらされることになるため、それらを予防するといった衛生環境の向上に役立つことが分かりました。

私は今回、毎日当たり前のように使っているトイレへの疑問をきっかけに、下水道の具体的な役割を初めて知ることができました。私たちが、健康で安心して生きていくために、下水道がこんな身近であり、重要な役割を果たしていることを学べたことは、とても大切な教養になったと思います。



入選

### 下水道について

城西川越中学校 三年

杉山 拓海

日本に住んでいるとあまり気にすることはありませんが、世界では水不足が深刻な問題となっています。下水道が雨水と汚水に分かれていることを最近まで知らず、下水道について何も知らないと思い知らされたのでこの機会にしっかりと調べて下水道について考えてみることにしました。

日本には山林が多いため雨が多く、水資源が豊富であることはもちろん、それに加えて下水道など水の設備がきちんと整備されていることも大きな水の問題が起きない理由の一つです。そしてさらに調べていくと大量に降る雨を処理



する施設、家庭から出る汚水を処理する下水道があることを知ることができました。さらに「雨水が町に溜まらないようにすばやく処理すること」「汚水を処理して人間が快適で衛生的な毎日を送れるようにすること」「工場排水などで汚れた川や湖や池や海の水をきれいにし、よみがえらせること」「処理した水などの再利用や施設の有効利用をして人々の生活を便利で豊かなものにする」と「下水道のたぐさんの重要な役割をも知ることができました。ちなみに下水道にはこれら四つの役割の他にも熱エネルギーの再利用や肥料作りなどの利用法もあるそうです。

このように調べてみると私達の生活に下水道はなくてはならないものだと改めて思い、下水道への見方が少し変わりました。下水道がよりよく機能し、しっかりと役割をこなせるように我々は普段生活する上で生活汚水を減らす

ことなど少しずつでもできることをやっていかなければいけないだろうと思いい、今回の作文はそれを行動に移させるきっかけになりました。

また、日本の下水道の普及率は七十七パーセント、つまり日本人の三人中二人の割合で普及しています。この数字だけ見るとしっかり普及しているように思えてしまいますが、アメリカでは四人中三人、イギリスではほとんどすべての国民に下水道が普及しています。しかし、ここまで普及させるのには百五十年以上もの長い年月がかかっているそうです。そうなってしまうと日本では下水道が広がり始めてからもう三百年も経っているのに、より領土の広いイギリスに先を越されていることになってしまいます。でもたとえ先を越されても最終的に全国に普及していればいいのではないかと思います。

そこで新興国の方に目を向けてみる

と、まだほとんど下水道が普及しておらず、汚染による環境破壊や伝染病、洪水などの様々な問題が数多く発生してしまってきたのでした。しかしすぐに解決するのは少し難しいでしょう。少しでも早いスピードで新興国での下水道の普及ができるようにある程度下水道が普及してきている先進国がお金や技術、人員を出し合いイギリスが百五十年かかった下水道の開発を二十年・十年と、より早く完成させられたらそれはとても理想的だなと思いました。

日本に住んでいるとつい忘れがちですが、今使えるきれいな水は三百年もかけて少しずつ普及されてきた下水道の恩恵によるものです。私もこれからはこのことを水を使う度に思い出し、下水道について考えを深めながら日常を過ごしていきたいと思えます。





## 下水道と生活の関わり

久喜市立久喜中学校 三年

落合 絢華

私たちは日々生活するうえでたくさ

んの水を使っています。水がないと私たちは生きていくことができません。こうして使われた水は、そのまま捨てると環境を汚してしまいます。川や海に住んでいる魚にも影響が出て、その魚を食べてしまった人間も病気になってしまいかもしれません。そのようにしないために下水道があります。では、下水道は実際にどのような役割を果たしているのでしょうか。

インターネットで下水道について調べてみると、四つの役割があることが分りました。

一つ目は、「浸水から町を守ること」です。大雨が降った時にも、洪水が起らないように雨水を処理しています。

二つ目は、「トイレが水洗になる」ことです。下水道整備により、し尿が汚水と一緒に流れ、下水処理場できれいな水に変わります。悪臭のないトイレにして、快適な暮らしができます。

三つ目は、「生活環境の改善」です。生活していくうえで出る汚水は、悪臭や虫が発生する元となってしまいます。その汚水が周囲環境を悪くしないように排除しています。

四つ目は、「公共用水域の水質保全」です。汚水がそのまま川などの公共用水域に排出されると、川の水は汚れ、自然を壊してしまいます。川には、魚などの他の生物も住んでいて、水が汚れると住む場所がなくなったり病気になったりしてしまいます。それを防ぐために、下水道は処理場からきれいな水を放

流しています。

このように、下水道は私たちの生活に大きく関わる役割を果たしていたのです。私は、今まで生活していく中で、道の下に見える下水道には気づいていても、その役割を知りませんでした。しかし、今回学んだことで私たちの生活に、下水道は欠かせないものだということが分りました。水を使い、汚しているのは私たちです。だから水を少しでも汚さないためにも私のできることをしたいと思います。

### 応募状況

〔 標語部門 〕	
部門応募数	899点
〔 ポスター部門 〕	
小学校低学年の部	230点
高学年の部	382点
中学校	221点
部門応募数	833点
〔 書道部門 〕	
小学校低学年の部	6,391点
高学年の部	9,854点
中学校	666点
部門応募数	16,911点
〔 作文部門 〕	
小学校	21点
中学校	47点
部門応募数	68点
応募総数	18,711点





埼玉県のマスコット **コバトン**




クマムシくんとなかまたちは、「埼玉の下水道マスコット」です。

下水処理場で、汚れた水をきれいにする微生物をキャラクター化しました。

このマスコットは、「下水道展 '15 東京」で開催された

全国下水道マスコット総選挙で第1位を獲得しました。

presented by  彩の国  
埼玉県

 公益財団法人埼玉県下水道公社  
Saitama Sewage Systems Agency



環境にやさしい大豆インキを使用しています。  
再生紙を使用しています。